

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1270800970		
法人名	スターツケアサービス株式会社		
事業所名	グループホームきらら市川妙典		
所在地	千葉県市川市塩焼4-14-22		
自己評価作成日	平成21年10月30日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社アミュレット		
所在地	東京都中央区銀座5-6-12 みゆきビルbizube7F		
訪問調査日	平成21年12月4日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>安全で安心して生活することが出来る。 地域の行事に積極的に参加させて頂き、地域との交流を大切にしている。</p>

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>「人が心が全て」という目標のもとに地域の中で暮らして行くことを大切に日々支援を行っている。地域の中でも当ホームが浸透してきており、運営推進会議でも活発な意見交換が行われている。 また、内外の研修が用意されており、外部で研修を受けた職員はホームでの会議で伝達するなど、職員の育成に力を入れると共に情報の共有を図っていることは高く評価できる。ケアプランや日々の記録においても職員間で認識が一致できるよう書式を整備し、職員一丸となり支援を行っている。</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	定期的ミーティングを行い、共有し実践できるように努めている。	「人が心が全て」を基本に定期的に行われるミーティングで職員に周知を行うとともに、事務所に掲げ共有されている。この言葉を基に地域の中で暮らせるよう日々取組まれている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	散歩や買い物に行く際、地元の方等に積極的に挨拶等を行った。	自治会に加入しており、地区の運動会や敬老会へ参加をしたり、地域の新聞を毎月持ってきてくれるなど、地域に当グループホームがあることが浸透しており、ゴミ拾いなど積極的に地域と交流する取り組みを行っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議を定期的に行い広めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	テーマを設け、地域の方、ご家族等に説明し、話し合いをしている。	2ヶ月に1度定期的開催されており、町内会長、地域包括支援センター職員、入居者の家族との参加がある。年間でテーマを立て会議を行っており、地域情報の収集も積極的に行っている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	ホーム長を中心とし行っている。	市役所の担当者とは日頃より相談等を行うほか、包括支援センターへ月1度は訪問しパンフレットを持参するほかホームの状況をお知らせするなど協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関の施錠は道路に面している為難しいが、各ユニットの玄関の鍵は開放し、職員全員が正しく理解できるように定期的に研修を行っている。	身体拘束については会議で事例等を共有するほか本部による研修も行われ、全職員が身体拘束について理解し介護にあっている。1Fの玄関については不審者侵入を防ぐ為電子錠となっているがユニット毎の出入口は開放されている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	本部での研修で学んだ内容を、各職員に伝え、虐待防止に努めている。		

グループホームきららし市川妙典3階

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	県開催の研修、本部での研修に参加し、学ぶ機会を設けている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	ご家族との関係を密にし、不安等何でも尋ねられる関係作りを心掛け、そのままにせず、納得して頂けるよう対応している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会、運営推進会議外でも、面会時の際に職員と話しができるよう対応している。	年2回家族会が開催され、運営推進会議についても毎月のお知らせで参加を呼びかけている。また来訪時には職員が家族等より意見を聞き、要望等に関しては結果をお伝えしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ホーム全体会議を定期的に行い、職員の意見を聞く場を設けている。	ユニット会議のほかホーム全体の会議も定期的に行い、職員が意見を言える場があり、内容によっては本部へ報告し検討を行っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	充分とは言えない。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	本部での研修、それ以外の研修等は積極的に参加してもらえるよう伝えている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	本部での研修、それ以外の研修等で同業者と交流が持てる機会がある。		

グループホームきららし市川妙典3階

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	日常的な会話の中での訴えをもらさないようにし、共有する事で、安心して生活して頂けるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前、直後等のヒヤリングを充分に行っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人から聞けない時はご家族から、生活歴等を聞き、出来る限りの情報を得る事。ご本人の表情や話し等からよりよい支援を考慮している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家事活動を中心とし、共に活動をしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	来訪時の対応や、なかなか面会に来られない家族に対しては、定期的に電話連絡をし状況を伝え、意見を聞けるような関係づくりに努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族が付き添って外出し、馴染みの人や場所との関係を継続している。	家族の協力も得て馴染みの場所や人との関係を継続をしたり、友人が訪ねてくるなど、一人ひとりにあった支援を行っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	共同作業の声掛けをし輪が出来る声掛けをしている。		

グループホームきららし市川妙典3階

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用時から、お互いに連絡を取り合える関係が築けるよう努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の会話の中で、希望、意向が把握できるよう、職員同士共有できるよう努めている。	センター方式を活用し本人及び家族から意向を聞き取っている。また、日々のコミュニケーションからも言葉に出ていない思いを汲み取り、その時の反応をまとめ検討を行っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	センター方式を活用し、生活歴等把握できるよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの生活リズムをシート化し、現状を把握できるよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族会や面会時にサービス内容を説明し、意見等を頂いている。貴重な意見等を大切に、より良い生活ができるような介護計画を作成できるよう努めている。	月1回モニタリングを行っているほか、日々の記録についても計画に沿って支援が行われたか確認が出来ている。家族からも来訪時等に意見を聞き、本人の意見と共に介護計画に反映されている。	現在、計画の見直しや評価について記録に空白が見られることもあり、今後より意識的に取組まれることが期待される。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録を記入し、情報を共有している。計画作成時、担当者は見直し、変更等を行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	職員同士、意見をたくさん出し合えるような関係・環境を築き、一人ひとりに適したサービスが行えるようにしている。		

グループホームきららし市川妙典3階

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	自治会との連絡を密にし、参加できる行事等には積極的に参加している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医の決定は、ご家族に判断していただいている。	入居者がいまままでのかかりつけ医を家族が付き添えない場合は、職員が送付き添いの支援を行っている。希望者には定期的な往診のもあり、急変時の対応も整えられている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	往診時に気になる症状を伝えたり緊急時には電話連絡をしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	主治医に相談し対応している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期を想定し、ご家族と話す事があるが、当施設での対応は難しい為、他施設への早期申込みをお願いしている。	グループホームとして出来る範囲を入居時より家族等に説明を行い、状況に応じて都度話し合いを行っている。また、必要に応じて他施設への移動とも含め話し合っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	講習を受けて、備えている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を行っている。	消防との防災訓練を行うほか、施設内避難訓練を月1回行うとともに運営推進会議で地域の方とも話し合いを行っている。備蓄品も用意され連絡体制も整備されている。	運営推進会議では地域の方とも話し合いが進められているが、3ユニットと人数も多い為、より協力体制の強化・確立に期待したい。

グループホームきららし市川妙典3階

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	スタッフは、日常生活において、入居者様に敬語を使うことを心掛けている。	マニュアルや研修等で職員に周知を図り、「相手の立場にたって」対応を行うよう管理者からも指導を行っている。訪問時にも特に問題は感じられなかった。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	活動するにあたって、選択肢がある物や事は、入居者様の意見を1人ずつ聞いている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日する事が決まってからになるが、可否は入居者様それぞれの意見を尊重している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎朝、洗顔時に髪型を整えたりしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	出来る方には、出来る事をさせていただいている。	準備や後片付け等は利用者も共に作業を行ない、メニューについても利用者の意見を聞き、季節感や栄養面を考えた食事作りを行っている。職員も共に食事をし、楽しく食事をしている様子が見られた。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	それぞれの体調に合わせて、食事量、水分量を調整している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、声掛け・見守りを行っている。		

グループホームきららし市川妙典3階

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表を見て、トイレの声掛けをしている。一人ひとりのパターンを読みとり失敗を減らせるよう支援している。	チェック表に詳細に記録し、その記録から一人ひとりの排泄パターンを見極め、トイレへ行くタイミングを読みとり、声掛け・誘導を行い排泄の自立を促す支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	長の動きが良くなるヨーグルトを食べていたり、毎朝10時には牛乳を飲んでいたりしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	希望がある方は、その時間で対応している。	毎日お風呂を沸かし利用者の希望によって入浴がされているが週2～3回は入れるよう支援している。入浴を拒否される方には清拭や足浴を行い清潔保持に努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活リズムを把握し、十分な睡眠、休息が摂れるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	体調の変化には常に注意しており医師との連携を取っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	好きな事を、声掛けをして行っていただいている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日々の会話の中で、本人の希望を読み取り、外出できるよう計画し、実行している。	日々の散歩に加え、近くの公園やスーパー等へ行くなど日常的に外出できるよう取組まれている。化粧品や嗜好品等の個人的な買い物も職員が付き添い、行事計画でたてたイベントごと以外にも外出ができるよう支援している。	

グループホームきららし市川妙典3階

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	外出した際は、買いたい物を買っていただく様声掛けをしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	居室にもモジュラーケーブルがひいてある。ケイタイ等、お持ちの利用者は自由に家族等との連絡を行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節を感じる事のできる花を飾ったりしている。	居間・食堂は窓が大きくとられ、非常に明るい空間となっている。職員はカーテン等で適宜光の調整を図り、温度や湿度にも気を配っていた。また、季節の花を飾るなど季節を感じる配慮や、動きの妨げになる物は直に片付ける事が徹底されていた。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファや畳、ダイニングテーブルでそれぞれお好きな所で過ごせる様にしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた棚を持ち込んでいただいたりしている。	使い慣れた家具等を持ち込んでいただき、利用者が馴染み物に囲まれた空間となるよう配慮されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全を損ねない様に居室の整頓を心掛けている。		